

### 1 事例の概要

これまで本校は国語科の研究に取り組み、児童にも説明文や物語文の読み取り方は定着しつつある。しかし、思考力・判断力・表現力が高まっているかという観点に立てば、課題は多い。全国学力・学習状況調査、県基礎学力調査の結果からも、それは明らかになっている。また、調査結果からは、算数科においても、「活用する力の育成が望まれる」という結果が出ている。さらに分析を深めると、国語では「読み取ったことを書く」、算数では「自分の考えを説明する」という点において弱いことが見えてきた。そこで、本校の研究テーマを『活用力』を育てる授業づくり～国語科、算数科を通して～として、授業改善に取り組むこととなった。

「活用力」を育てるための授業改善として、以下に示す2つのことに留意して単元計画を立てて実践した。

①単元でとらえさせたい力を明確にする

(単元の目標の後に、「単元で捉えさせたい原理・原則」として、短くまとめたものを明記))

②中教審の「学習指導要領改善についての答申」に示された、思考力・判断力・表現力を育む学習活動の例①から⑥を参考にした学習活動を単元計画に組み込む

**A-1 研究構想図**

**A-2 算数 学習活動の例**

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・まとまりを考えて解く思考法のよさが分かり、進んで活用しようとする。(関心・意欲・態度)
- ・加法と乗法を組み合わせた4要素の問題を共通の要素に注目してまとめて考えることができる。(考え方)
- ・加法と乗法を組み合わせた4要素の問題について、まとまりを考えて解くことができる。(表現・処理)
- ・加法と乗法に関して成り立つ性質のもとになる計算の仕方を理解している。(知識・理解)

#### (2) 指導上の工夫点

①単元で捉えさせたい原理・原則	2つの考え方を図、式、言葉で表現すること
②活用の基となる知識・技能の習得	・考えを図で表す経験 ・発表シートを使った説明
③活用の場における学習活動	・2つの考え方を図、式、言葉で表現 ☆問題場面に適した思考法(まとまりを考えて解く方法と、べつべつに考えて解く方法)を選び、説明したり活用したりする(学習活動分類③) ・ペアでの意見交流、全体での学び合い
④学習意欲を高める手だて	・思考の場を設定すること (生活場面を取り入れた問題を提示)

**B-1 算数 単元計画**

### 3 指導の実際

主な学習活動	配時	児童の主な意識の流れ	○主な支援 ■評価
<b>1. つかむ</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     120 円のハンバーガーを3つ、80 円のドリンクを3つ買いました。何円はらえばいいですか。                 </div>	10	・「120 円のハンバーガーを3つと80 円のドリンクを3つ買いました。」が分かっていることだ。 ・「何円はらえばいいですか。」がお尋ねの文だ。	○絵の提示や、分かっていること尋ねられていることの確認を通して、問題場面が把握できるようにする。
いろいろな考え方で解く方法を考えよう。			
<b>2. ふかめる</b> ①自力解決する。 ②集団解決する。 ・ $120 \times 3 = 360$ $80 \times 3 = 240$ $360 + 240 = 600$ <u>A. 600円</u>  ・ $120 + 80 = 200$ $200 \times 3 = 600$ <u>A. 600円</u>	20	・120 円のハンバーガーが3つ、80 円のドリンクが3つだからかけ算だ。最後に合計すればいい。 ・ハンバーガーもドリンクも3つずつ買うのだから、セットにして考えると200円のセットが3人分だ。 ・まとめ方を変えると、別の解き方もあるな。	■既習の考え方を利用して、問題を解こうとしている。 【関・意・態】(行動観察) ○考えや解法を聞きあうことができるように、ワークシートを掲示する。 ○「いっしょに考えて解く」方法のよさやどんな場面において使えるのかななどを板書する。
<b>3. まとめる</b> ①確認問題を解く。 ②ふりかえりをする。	15	「べつべつに考えて解く」方法や「いっしょに考えて解く」方法がある。  ・「いっしょに考えて解く」と簡単な計算で、早く解くことができ	■加法と乗法を組み合わせた4要素の問題を、まとも

C-1 3年指導案

C-2 3年発表シート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・「活用力」をつける授業実践への教師の意識改革が進んだ。
- ・「活用力」を育てる授業づくりのために必要とされる、課題解決型の授業の流れが児童に定着しつつある。少しずつではあるが、児童の「活用力」が高まってきている。

#### (2) 課題

- ・児童に課題意識をもたせることにより、児童の学習意欲向上を図る。
- ・教師の課題解決型授業での指導力向上(単元でつきたい力を明確にする単元構成力、単位時間の授業構成力、学び合いの中での意見を整理する力の向上)をめざしたい。
- ・児童が説明をするとき、相手意識を持たせ、分かりやすい文や図をかく力、伝わる話し方の系統的な指導を積んでいかねばならない。